

明日の平和をさがす本

夏がやってきました。毎年この季節になると戦争について考える人も多いと思います。テレビなどでも、たくさんの特集が組まれますね。戦争というのは、遠い昔のことではなくて、現在も世界のあちこちで起こっているし、日本が戦争に否応なく巻き込まれる可能性も考えられます。

戦争というのは非常に身近な恐ろしいものでありながら、実際に経験するまではその姿を知ることにはできません。歴史の授業で戦争について学びますが、戦争の実際の姿を肌で知るためには文学作品によるのが一番近道かも。



* 戦争ってなんだろう? *	* 声なきものたちの戦争 *	* 生きるための冒険 *
 <p>「14歳からの戦争のリアル」 雨宮処凛／著 実際、戦争へ行ってどういうことなのか？ 第二次大戦経験者、イラク帰還兵、戦場ボランティア、紛争解決人、韓国兵役拒否亡命者、元自衛隊員、出稼ぎ労働経験者にきく、戦争のリアル。</p>	 <p>「戦火の馬」 マイケル・モーパゴ／著 私の名はジョーイ。愛する少年との穏やかな農場暮らしを後にして、最前線に送られてきた。そこで眼にした光景は…。私は駆ける、戦場を。愛する少年との再会を信じて、駆け抜ける。</p>	 <p>「路上のストライカー」 マイケル・ウィリアムズ／編 デオは年のはなれた兄のインセントとともに、故郷ジンバブエでの虐殺を生きのび、南アフリカを目指す。過酷な運命に翻弄されながらも、デオはサッカーで人生を切り開いていく。</p>
 <p>「戦争するってどんなこと」 C・ダグラス・ラミス／著 軍隊は国や人々を守れるの？それともかえって危険な存在なの？沖縄戦を生き延びた元県知事大田昌秀さんのインタビューも収録。</p>	 <p>「さがしています」 アーサー・ピナード／著 「おはよう」「いただきます」「ただいま」その言葉をかわすことができる、みんなの生活は、どこへいったのか？ピカドンを体験したカタリベたちは、さがしていますーたいせつな人びとを、未来につづく道を。</p>	 <p>「リフカの旅」 カレン・ヘス／著 1919年、ロシア兵の迫害をのがれアメリカを目指すユダヤ人の一家。12歳の末娘リフカは病いのため一人ヨーロッパに足止めされる。アメリカ入国までの困難と不安や夢を、故郷に残った大好きな従姉に宛てた手紙で綴る。</p>
 <p>「ぼくの見た戦争」 高橋邦典／著 戦場では人の死がとてすくそばにある。2003年3月。イラクが大量破壊兵器をもっているという理由で、戦争になるかもしれない緊張感が高まりつつあった。アメリカ軍に従軍した日本人カメラマンの記録。</p>	 <p>「はたらく地雷探知犬」 大塚敦子／著 フォックストロットとクッキーは、ボスニアで、地雷探知犬になるための訓練中。犬たちはどんな訓練を受けて、どうやって地中に埋まった地雷を探すのでしょうか。そして、今も世界のあちこちに地雷や不発弾が残っているわけは？</p>	 <p>「生きる 劉連仁の物語」 森越智子／著 1944年9月、日本軍により中国から連れ去られた劉連仁。苛酷な炭鉱労働から逃亡し北海道の山中で一人、13年間生き抜いた。奪われた人としての尊厳をとり戻すための孤独な闘いの物語。</p>
 <p>「これから戦場に向かいます」 本美香／著 伝えたい。人間として、ジャーナリストとして。2012年8月、シリア内戦取材中に銃弾に倒れた戦場ジャーナリスト・山本美香さんからのメッセージ。</p>	 <p>「アンネのバラ」 葉祥明／著 娘アンネ・フランクを命ある限り愛しつづけたオットー・フランク。娘への想いと、アンネの平和への意思が深く刻み込まれた美しいアンネのバラ。 アンネのメッセージがこもった詩画集。</p>	 <p>「ヒトラーのはじめたゲーム」 アンドレア・ウォーレン／著 ここで起こることは、すべてゲームだと思え。どんな目にあっても、くよくよしてはいけな。うまくゲームをするんだ。そうすれば、ナチより長く生きることができるかもしれない。極限状態のなかで、ジャック少年が見たものとは…。</p>
 <p>「せかいでいちばんつよい国」 デビッド・マッキー／著 世界中の人びとを幸せするために世界中を制服した、ある大きな国の大統領のおはなし。</p>	 <p>「すみれ島」 今西祐行／著 太平洋戦争が終わったのち、特攻機の飛んでいった南の小さな島にひっそりすみれが咲きます。声高に戦争反対を叫ぶのではなく、静かに、平和の重さ、命の尊さを語りつづ絵本です。</p>	 <p>「茶畑のジャヤ」 中川なをみ／著 茶畑で茶摘みの手伝いをしている少女、ジャヤとの出会いによって、自分自身の生き方を見つめ直した周は、「じっとうすくまっていたも、自由は訪れない」という強い気持ちを持って7日間のスリランカの旅を終えて、帰ってくる。</p>